

九州・山口県の火山活動 (令和8年4月1日～5月19日)

令和8年5月19日
福岡管区気象台
地域火山監視・警報センター

今回のポイント

- ・桜島で噴火活動が継続
- ・口永良部島で火山性地震がやや増加。
- ・薩摩硫黄島で5月17日に噴火が発生。

桜島

噴火警戒レベル3（入山規制）

南岳山頂火口及び昭和火口から概ね2 kmの範囲で警戒（大きな噴石、火砕流）

口永良部島

噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）

新岳及び古岳の火口内では、火山灰等が噴出する可能性。

薩摩硫黄島

噴火警戒レベル2（火口周辺規制）

硫黄岳火口中心から概ね0.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒。

噴火警報及び噴火予報の発表状況 (令和8年5月19日現在)

火山名 は噴火警戒レベル運用火山

- ▲ 噴火警報発表中の火山
- ▲ 噴火予報発表中の火山 (レベル運用火山)
- △ 噴火予報発表中の火山 (レベル対象外火山)



桜島

噴火警戒レベル3（入山規制）

■ 爆発の状況

- 2026年4月11日から21日にかけて爆発が8回、5月8日に1回発生した。
- 5月8日16時15分の爆発では、噴煙が最高で火口縁上3,500mまで上がり、大きな噴石は最大で5合目（火口から約1,000m）まで達した。爆発に伴い、火砕流が南東側へ約600m流下した。



桜島

噴火警戒レベル3（入山規制）

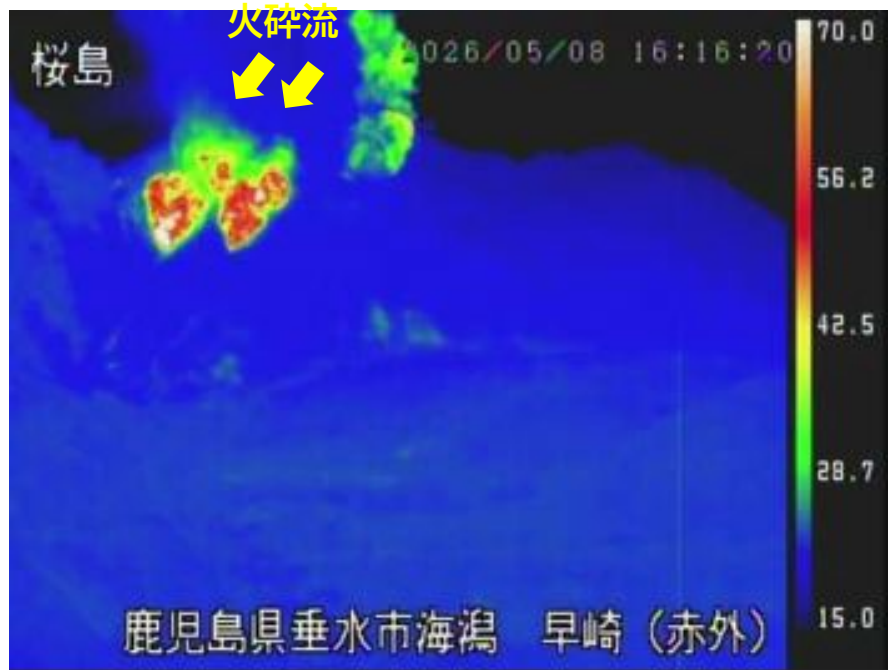
■ 火砕流の発生状況

5月8日16時15分の南岳山頂火口の爆発では、火砕流が火口より南東側に約600m流下した。

桜島で火砕流が発生したのは、2018年6月16日（火口より南西側約1300m流下）以来である。



5/8 16:16(爆発直後)



※画像データは九州地方整備局大隅河川国道事務所の早崎監視カメラの映像による

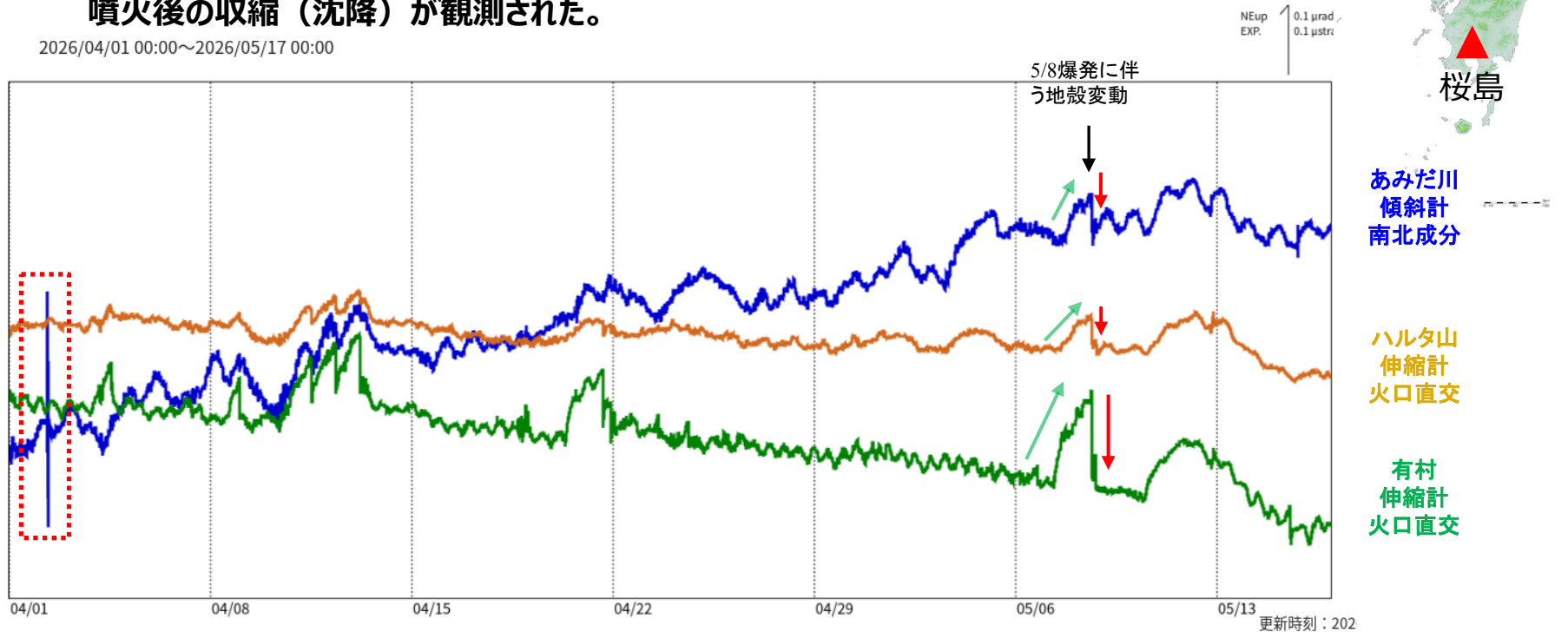
桜島

噴火警戒レベル3（入山規制）

■ 傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況

- 一部の噴火（爆発）に伴い、噴火前の山体の膨張（隆起）及び噴火後の収縮（沈降）が観測された。

2026/04/01 00:00～2026/05/17 00:00



桜島 傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況(2026年4月1日～5月16日)

※赤破線内で示す変化は、遠地地震の影響によるものと考えられる。

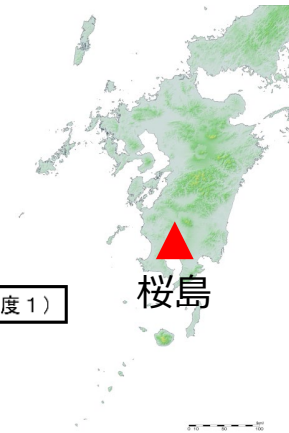
※あみだ川観測点は山頂火口域のほぼ北に位置していることから、傾斜計南北成分の南側が上がる傾斜変動を火口側が上がる変動とみなして表示。

※各観測点のデータには、潮汐補正を行っている。

※図の作成には、大隅河川国道事務所の有村観測坑道及び京都大学のハルタ山観測坑道の観測データを使用。

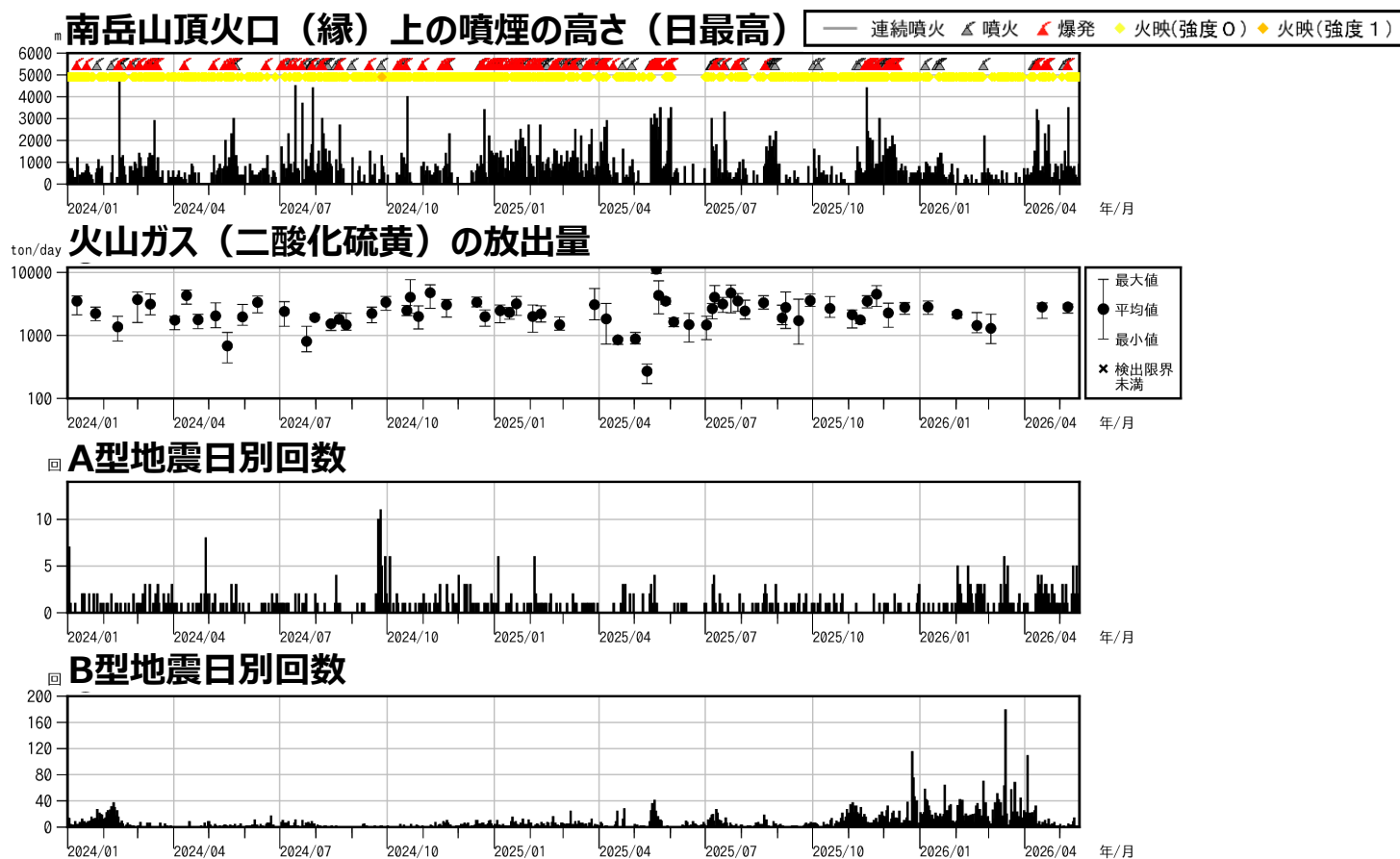
桜島

噴火警戒レベル3（入山規制）



■ 火山活動経過図

- ・2026年4月11日から21日にかけて爆発が8回、5月8日に1回発生。
- ・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量はおおむね多い状態で推移。
- ・火山性地震は2026年4月以降概ね少ない状態で経過。



2024年1月1日～2026年5月17日

桜島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル3（入山規制）

警戒事項

南岳山頂火口及び昭和火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する**大きな噴石**及び**火砕流**に警戒してください。

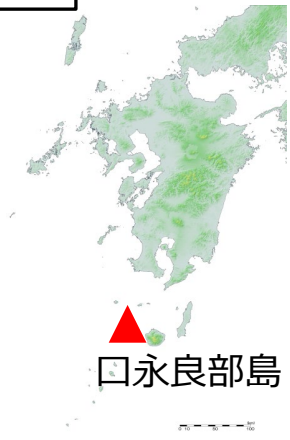


南岳山頂火口及び昭和火口から概ね2 km

- ・風下側では**火山灰**だけでなく**小さな噴石**が遠方まで風に流されて降るため注意してください。
- ・爆発に伴う大きな**空振**によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。
- ・降灰状況により、降雨時に**土石流**が発生する可能性があるので留意してください。

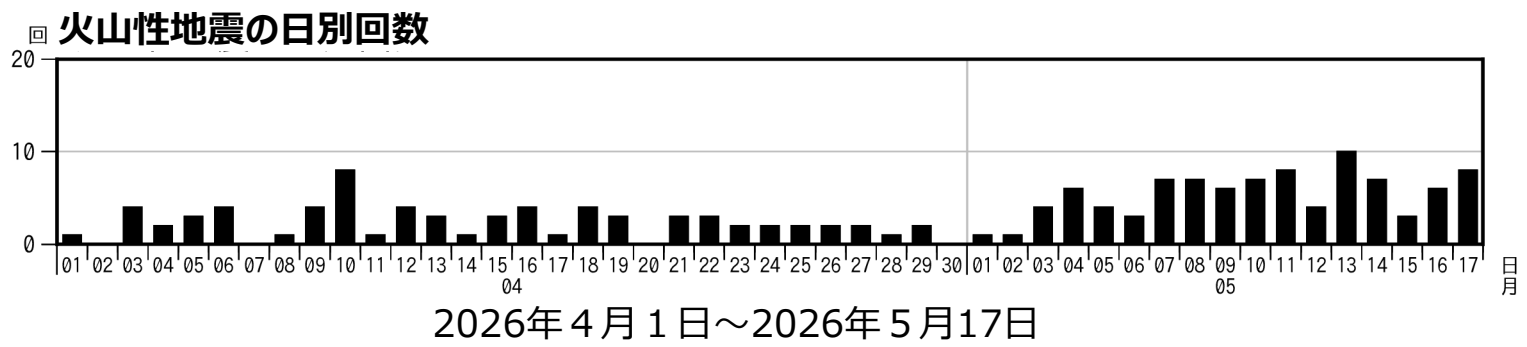
口永良部島

噴火警戒レベル 1 (活火山であることに留意)



■ 火山性地震の回数

- ・口永良部島では火山性地震がやや増加。
- ・火山性地震の回数は5月17日までの前10日間で65回発生。
- ・その他のデータには特段の変化は認められません。
- ・火山活動がやや高まっている可能性があり、今後の火山活動に関する情報に留意



噴火警戒レベル 2 の判定基準 (※火山性地震回数関連のみ)

【新岳及び古岳火口周辺に影響を及ぼす噴火の可能性】

<短期間での火山活動の高まり>

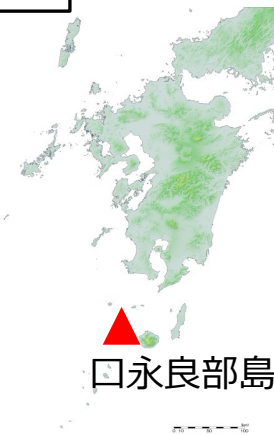
- ・火山性地震の増加 (10 回以上/時間、30 回以上/24時間又は20 回以上/日が2日以上連続した場合)

<中・長期にわたる火山活動の高まり>

- ・10 日間 (中期) の地震の回数が100 回以上

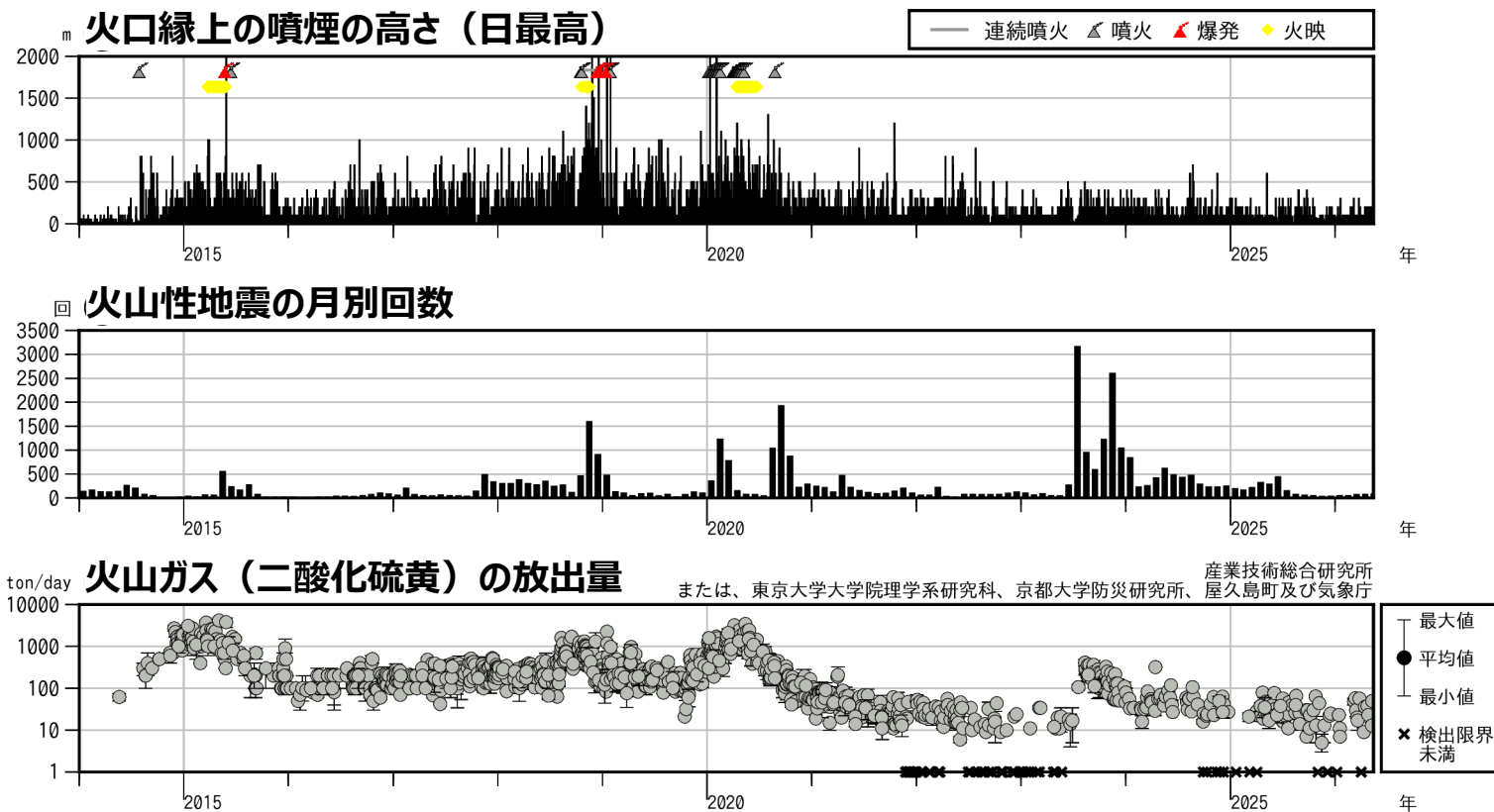
口永良部島

噴火警戒レベル 1 (活火山であることに留意)



■ 火山活動経過図

遠望観測や火山ガス (二酸化硫黄) の放出量では、特段の変化は認められていません。



2014年4月1日～2026年5月17日

口永良部島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル1 (活火山であることに留意)

防災上の留意事項

- 活火山であることから、新岳及び古岳の火口内では、火山灰等が噴出する可能性があります。



- 新岳西側割れ目等の地熱域では、高温の噴気や火山ガス等に注意してください。
- 地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

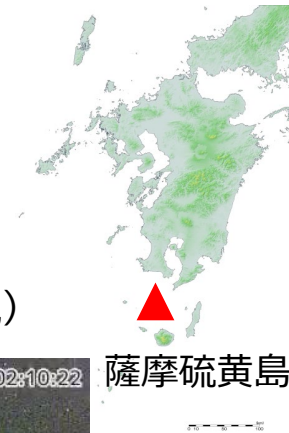
レベル1：状況に応じて火口内への立入規制等

薩摩硫黄島

噴火警戒レベル2（火口周辺規制）

■ 噴火の状況

- ・ 薩摩硫黄島の硫黄岳火口で、5月17日02時07分に噴火が発生。
- ・ 噴煙は火口縁上400mまで上がった。弾道を描いて飛散する大きな噴石は観測されなかった。
- ・ 薩摩硫黄島で噴火が観測されたのは、2025年12月29日以来。



5/17 02:08:02(噴火直後)

5/17 02:10:22(噴火による噴煙の状況)



薩摩硫黄島

※岩の上監視カメラ

■ 薩摩硫黄島の最近の噴火

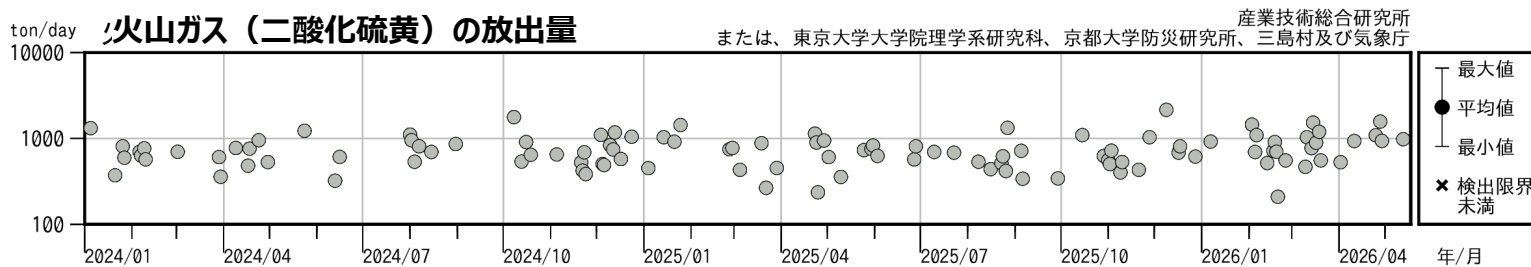
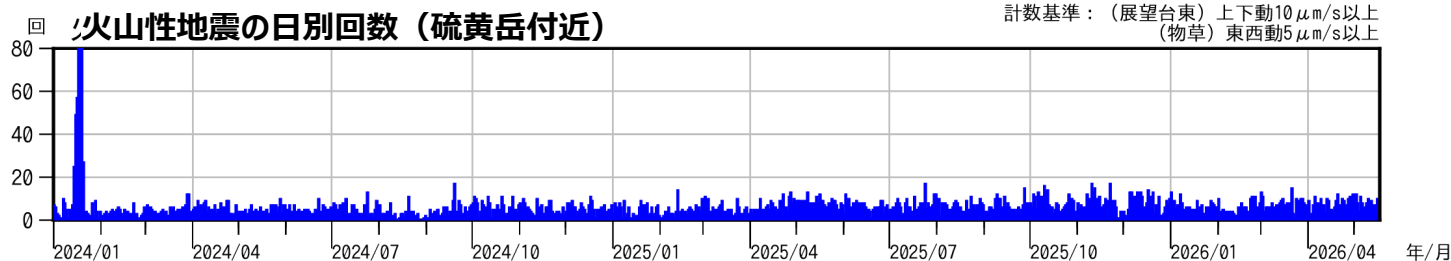
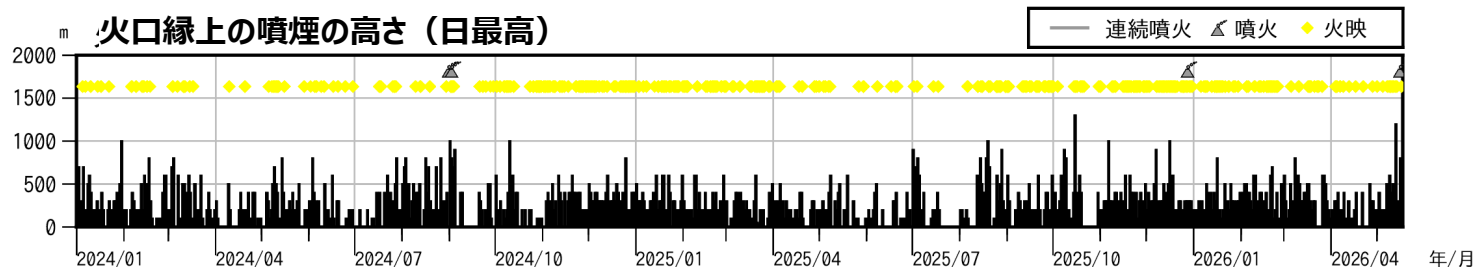
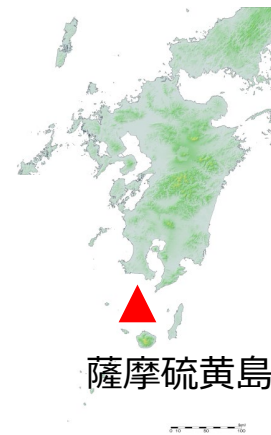
2024年9月1日	噴煙は火口縁上1000m。大きな噴石の飛散は観測されていない。 2020年10月6日以来の噴火。
2024年9月3日	噴煙は火口縁上700m。大きな噴石の飛散は観測されていない。
2025年12月29日	噴煙は火口縁上400m。大きな噴石の飛散は観測されていない。

薩摩硫黄島

噴火警戒レベル2（火口周辺規制）

■ 火山活動経過図

- 噴火に伴う特段の変化は認められていません。



2024年1月1日～2026年5月17日

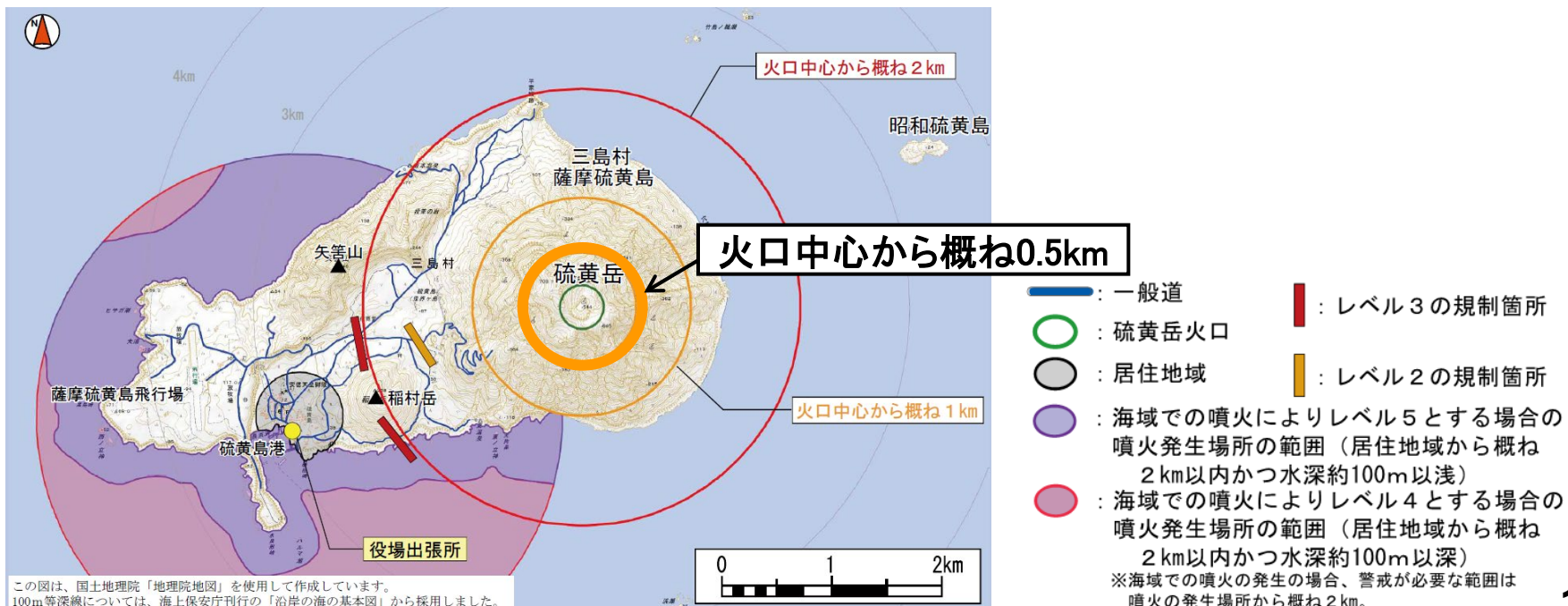
薩摩硫黄島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル2（火口周辺規制）

警戒事項

硫黄岳火口中心から概ね0.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。



以下、参考資料

(用語集、噴火警戒レベルの判定基準リンク集)

用語集及び噴火警戒レベルの判定基準について

- **噴石** : 気象庁では、噴火によって火口から吹き飛ばされる防災上警戒・注意すべき大きさの岩石を噴石と呼んでいる。火山に関する情報では、防災上の観点から、「大きな噴石」および「小さな噴石」に区分して使用する。
 - ・**大きな噴石** : 概ね20～30cm以上の、風の影響をほとんど受けずに弾道を描いて飛散する噴石のこと。
 - ・**小さな噴石** : 直径数cm程度の、風の影響を受けて遠方まで流されて降る噴石のこと。
- **火砕流** : 噴火により放出された破片状の固体物質と火山ガス等が混合状態で、地表に沿って流れる現象のこと。火砕流の速度は時速百km以上、温度は数百℃に達することもあり、破壊力が大きく、重要な災害要因となりえる。
- **空振** : 噴火などによって周囲の空気が振動して衝撃波となって大気中に伝播する現象のこと。空振が通過する際に建物の窓や壁を揺らし、時には窓ガラスが破損することもある。火口から離れるに従って減速し音波となるが、瞬間的な低周波音であるため人間の耳で直接聞くことは難しい。
- **火山性地震** : 火山体またはその周辺で発生する地震のこと。マグマの動きや熱水の活動等に関連して発生するものや、噴火に伴うものもある。火山によっては火山活動が活発化すると多く発生する傾向がある。
- **火山性微動** : 火山体またはその周辺で発生する火山性地震よりも継続時間の長いもの。地下のマグマや火山ガス、熱水などの流体の移動や振動が原因と考えられるものや、微小な地震が続けて発生したことによると考えられるものがある。火山活動が活発化した時や火山が噴火した際に多く観測される。
- **火映** : 高温の溶岩や火山ガス等が火口内や火道上部にある場合に、火口上の雲や噴煙が明るく照らされる現象のこと。一般には夜間に観察される。
- **赤熱** : 高温の溶岩や噴気孔が赤く見える状態、あるいは現象のこと。
- **GNSS連続観測** : GNSS（全球測位衛星システム：Global Navigation Satellite Systems）の受信機を用いて連続的に地表の動き（地殻変動）を測定する観測。火山内部のマグマの動きを推定するために利用される。
- **爆発** : 噴火の一形式。桜島や霧島山など、「爆発」の用語が地元で定着している場合には、爆発地震の有無、空振の大きさ、大きな噴石の飛散距離などの条件を満たす噴火について、「爆発」を使用することがある。

✓ 気象庁が噴火警報等で用いる用語集はこちらからでも確認できます。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

✓ こちらで全国の噴火警戒レベルの判定基準とその解説が確認できます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/keikailevelkijunn.html